

平成29年度 第2回宇和島市総合教育会議会議録

- 1 開催日時 平成29年11月28日(火) 10:00～11:43
- 2 開催場所 宇和島市役所 A棟会議室
- 3 出席者 宇和島市長 岡原文彰、教育長 織田吉和  
教育委員 高山俊治、廣瀬孝子、木下充卓、弓削由美子

総務部長 藤田良

教育委員会事務局

教育部長 常盤修二、教育総務課長兼学校給食センター所長 横山泰司

教育総務課 課長補佐 土居弘、教育総務課主事 濱田紘太

学校教育課 課長補佐 木下善一郎、生涯学習課長 寺尾利弘

文化・スポーツ課長 宮本清司、人権啓発課長 山本利彦

1. 開会	
常盤教育部長	ただいまから、平成29年度第2回宇和島市総合教育会議を開会いたします。 それでは開会にあたりまして、岡原市長よりごあいさつをお願いいたします。
2. 市長あいさつ	
岡原市長	みなさん、改めまして、おはようございます。本日は、お忙しい中、総合教育会議にご参集くださいまして、まことにありがとうございます。まず、ここで少しお詫びをしなければならないのは、本来、今日2時から開催の運びとなっております、午前中は教育委員さんにはご都合が悪い方もいらっしゃったとお聞きしておりました。昼からどうしてもという事情ができましたので、無理を言い申し訳ありませんでした。ありがとうございます。 今年度、この総合教育会議は2回目ということで、私自身は今回が1回目でございますので、作法であるとか、そういったものが、十分に存じ上げてないところでございますが、私なりにいろいろな意見を申し上げたらと思っております。今回の総合教育会議におきましては、来年度の当初予算にかかる部分、そして学校の編成について、これらが主たる議題だと思っておりますので、いろいろな皆様のお気持ち、お考えを聞かせてくださったらと思っておりますので、本日は忌憚のないご意見をいただいたらと思っております。よろしくをお願いいたします。
3. 教育長あいさつ	
常盤教育部長	ありがとうございます。続きまして、織田教育長、ごあいさつをお願いいたします。
織田教育長	岡原新市長を交えて、この総合教育会議が開催されますこと、大変ありがたいと思います。よろしくをお願いいたします。当面の課題につきまして3点ほど述べさせていただいて、教育長あいさつに代えたいと思っております。

	<p>まず1つ目ですけれど、教職員の働き方改革ということが最近よく言われております。ちなみに市内の教職員の直近の10月の調査結果について述べてみますと、小学校で22%、中学校で25%の教職員が過労死ライン、月80時間以上を超えている数字になります。統計を取り始めて、昨年6月からですから、1年以上過ぎましたけれども、少しずつ望ましい方向に推移しているかなと思っておりますが、共通実践目標を設定して、少しでも改善の方向に繋げていきたいと思っておりますのが1つ目です。</p> <p>2つ目として、学力向上ということが市内の小中学生の大きな課題でもあります。県全体としてはアップに繋がっているのですけれども、20市町で見えていくと、小中とも下位であるということがある程度確かな実態であると捉えております。順位に一喜一憂するつもりはありませんけれども、やはり地道な取組を継続していきながら、基礎学力の定着、家庭学習の習慣化を図っていくことが強く求められていることだと捉えています。この11月ですけれども、各中学校区、6校区で、小中連携に基づいた市教研という市の教育研究大会がありました。一応3ヶ年の取組の本発表の年に当たるのですけれども、同じ中学校区で小中連携を図りながら、生活習慣とか学習の習慣化を図っているところですが、こうした地道な取組も先ほど言いました学力向上になんとか繋げていきたいと思っております。</p> <p>3つ目として、これまで総合教育会議や定例教育委員会でも協議しながら立ち止まっているのが、吉田地区5小学校の統合と、また少しいろいろな課題がありました給食費の負担軽減についてですけれども、これについても新市長のもと、また我々教育委員会でも再確認しながら、新たな方向実態を踏まえた望ましい方向に協議が進むよう努力していきたいと考えているところです。改めまして、私たちの役割としては、今日の前にある現実的な課題と併せて、やはり次代を担う子どもたちに、これから求められる学力、生きる力をつけさせるために、将来を見据えた取組をしっかりと論議していかねばならないと感じているところです。</p> <p>市長、あるいは教育委員さん方もそれぞれのお立場で、地域の声などを出していただきながら、協議できればと思っております。よろしく願いいたします。</p>
常盤教育部長	<p>ありがとうございました。それでは、ここからは、規定によりまして、市長のほうに進行をお願いしたいと思います。岡原市長、どうぞよろしくお願いいたします。</p>
<b>4. 協議事項</b>	
岡原市長	<p>それでは、早速協議を進めてまいりたいと思います。</p> <p>協議事項の(1)平成30年度宇和島市教育委員会における主要な施策について、事務局、説明をお願いします。</p>
横山教育総務課長兼学校給食センター所長	<p>教育総務課の横山から順次説明いたします。お手元の資料1をご参照ください。各課から来年度の主要な事業について説明させていただきます。教育総務課からは、ナンバー1からナンバー4の4つの事業について説明いたします。</p> <p>1番目、学校ICT環境整備事業、事業内容といたしましては、中学校へ</p>

	<p>のタブレットパソコンと無線LAN環境の整備という内容のものでございます。学内ICTの整備につきましては、平成25年度に中学校におきましてはデスクトップパソコン240台を入替えを済ませてはいるのですが、26年には小学校に620台程度タブレットパソコンを入れております。中学校にタブレットパソコンがございませんので、タブレットパソコンを追加整備することとタブレットパソコンの機動性を高めるために、普通教室と一部の特別教室に無線LANを整備し、自由にタブレットを移動ができて利活用ができる環境を整備しようとするものでございます。</p> <p>2番目、学校の空調設備整備事業について説明します。これにつきましては、今年度、三間、吉田、城北の3中学校に空調の整備工事を夏休み中に完了しております。これにつきましては国庫補助が付いたということもあるのですが、現在、残り3校、城東、城南、津島につきましても、国庫補助の申請をしているところではございますが、採択されるかどうかについては、未定ということでございます。ただ、いずれにしても採択されない場合においても、中学校3校だけ残すわけにはいきませんので、これにつきましては、市の単独事業になったとしても、有利な起債を充てるなどして財源を確保して3校整備するよう財政とはある程度話がついているものでございます。目的としては空調整備による安心安全な教育環境をつくり児童生徒の集中力の向上に繋げるというものでございます。</p> <p>3番目、学校の防災機能強化事業ということで、これも今年度、和霊小学校と高光小学校で老朽化した木製の建具の改修を行った残りの部分の和霊小学校部分を国の補助をもらってやり替えをするものであります。</p> <p>4番目、学校のプールの改築事業として城南中学校と岩松小学校が老朽化しておりますので、現在、設計委託を出して、ほぼ設計ができています状態でございます。来年度これについても補助申請をしております。教育総務課からは以上でございます。</p>
木下学校教育課課長補佐	<p>本日、学校教育課長、野田のほうで教職員面接に行っておりますので、補佐である私のほうで説明させていただきます。学校教育課のほうからは、5番、6番、7番について説明をいたします。</p> <p>まず5番目の学校自主企画学習事業ですが、小学校22校、中学校5校が申請し、各事業を実施しているところでございます。目的は学力向上です。各小中学校及び5教科の各種研究委員会が児童生徒、学校及び地域の実態に即した自主企画の学習を展開して、それらに対して補助金の交付を行い支援するものです。具体的には補助金交付の要綱にも示してはありますので、次の2つでございます。学力向上に資する各種検定への補助、外部講師の招へいを伴う学習事業この2つに対して補助を行います。</p> <p>続いて6番目の補充学習支援員配置事業について説明させていただきます。小学校17校、中学校6校、計23校が申請しております。支援員の延べ人数が57名を配置して行う事業となっております。各学校の児童生徒の実態に応じて行いますが、だいたい週1、2回、1回につき1時間から2時間程度となっております。支援員につきましては、学校教育に関心、理解のある者ということで、教職員OB、スクールカウンセラー、特別支援教育支援</p>

	<p>員や学校生活支援員など、他の支援員と兼務している者がほとんどとなっております。目的につきましては児童生徒一人ひとりに確かな学力を身に付けることができるようにするために、補充学習のための支援員を配置し、学習時の支援、プリントの採点、集計データの入力、放課後の時間だけに関わらず、教職員と共に児童生徒の補充学習を支援します。また、県のウェブ上で提供されている学びの森学習シートや市の予算で業者のウェブ上にアクセスして行うみんなの学習クラブ、つながるドリーム、及び先ほども説明したのですが、学習自主企画学習事業の補助により購入したドリル等を活用して補充学習を行っております。</p> <p>7番目の適応指導教室運営事業につきましては、ご存じのとおり鶴島小学校の敷地内に隣接して、室長を含め教育相談員6名で、不登校または不登校傾向にある児童生徒に対して個別のカウンセリングを行うとともに、教科指導、体験活動を通じた集団生活の適応指導を行うなど自立のための学校復帰を目的とした公的施設であります。通称「わかたけ」ということで、原則としては、小中学校で不登校またはその傾向にある児童生徒のうち本人、保護者が入室を希望する者になっております。現在10月の通室状況につきましては、小学生が4名、中学生5名の計9名で、外出相談、電話相談、家庭訪問、巡回訪問、教育相談の件数につきましては、だいたい毎月100件程度です。30年度については自立圏構想に基づいて、宇和島市、鬼北町、松野町、愛南町の1市3町の対象児童を受入れる予定でもあります。これについては検討中です。「わかたけ」新築についても、30年度は課内、あるいは「わかたけ」関係者で検討会を行う予定であります。できれば31年度の当初予算に設計委託料を計上して、遅くとも平成33年度には新築完成を目指しているところでございます。学校教育課からは以上です。</p>
<p>寺尾生涯学習課長</p>	<p>生涯学習課、寺尾です。8番から13番の6事業を説明させていただきます。</p> <p>まず8番の和霊公民館改築事業ですが、築42年経過し老朽化した和霊公民館を勤労青少年ホーム跡地に移転新築するものです。平成29年度に、地盤調査、改築設計、勤労青少年ホームの解体設計を行い、平成30年に解体と改築を行います。平成31年に旧和霊公民館の解体工事を行います。</p> <p>続いて9番の石応公民館の改築事業ですが、新規30年度事業で、石応公民館も昭和49年建築で築43年経過し、老朽化が著しく耐震性もないので、石応公民館の位置、もと保育園の跡地での改築予定です。現在の公民館の耐震化については、旧宇和島地区は、和霊、石応、三浦の3館、吉田地区は奥南、喜佐方、立間、玉津の4館、津島地区は、御槇の合計8館が旧耐震基準の施設でありますから、喫緊の課題として耐震について検討したいと思っております。</p> <p>続いて10番の駅前複合施設の図書館事業と11番の生涯学習センター管理事業の件ですが、駅前複合施設の開館予定がこのまま工事が遅れない場合は、平成30年11月開館に合わせ、所蔵図書の本ICタグシステムの導入、効果としては、運営事業の効率化、館内どこでも閲覧が可能になる利用者の利便性の向上、蔵書点検のスピード化等が考えられます。</p>

	<p>続いて学習センターの管理事業につきましては、先般、市長とも駅前複合施設の運用開館日について協議し、1階生涯学習センター事業は管理運営に専門的知識を有した業者に指定管理をしていただき、2階3階図書館と4階の子育て支援については直営で行います。開館日についても、年末年始の12月29日から1月3日まで休館で、後は4フロアとも休館日なしで開館します。時間についても、9時から19時、1階の学習センターについては9時から22時まで開館します。指定管理については、生涯学習関連業者を想定し、市民ニーズに応える生涯学習サービスの向上をメインと考えております。</p> <p>次に12番の公設無料塾運営事業うわじま土曜塾ですが、家庭での学習が困難であったり、学習習慣が十分に身につけていない子どもに対し、学習習慣と基礎学力の定着を図ることで、子どもたちの未来の可能性を伸ばす目的で、29年度より本格的に開講しました。今年度の成果を十分検証し、30年度の事業内容について今再検討を考えております。</p> <p>続いて最後になるのですが13番目、結婚推進事業、結婚支援のための拠点作り事業で、宇和島市総合戦略に掲げる人口減少対策や地方創生を目的とした取組みの一環として、市民が結婚の希望を叶えられるよう支援することを目的としています。事業内容といたしましては、多様な出会いの場作り、民間委託、結婚支援事業補助、結婚支援の推進ボランティアの育成等です。事業効果としては、KPI、数値目標を登録者の増、成婚者の増等です。以上が生涯学習課分です。</p>
宮本文化・スポーツ課長	<p>文化スポーツ課について説明させていただきます。文化スポーツ課関連は14番から17番の4つの事業でございます</p> <p>まず、14番目といたしまして、市民スポーツ交流施設管理事業でございますが、これは長堀にあります旧クリーンセンター、し尿処理施設の建物を改修して日本水泳連盟公認プール、あとはクライミングホールを中心とした市民スポーツ交流施設の管理運営でございます。平成30年、来年の7月オープン予定でございます。現在のところ工事は順調に行われていると聞いておりますので、このままでいけば、7月に順当にオープンとなると考えております。指定管理制度のほうを活用したいと考えております。中は、室内は温水プール、これは公認プールの25メートルが6コースでございます。そしてクライミングがウォール15メートルとボルダリングでございます。そしてあとは多目的ラウンジと会議室があり、体育館は前からありました施設のほうを利用したいと考えております。</p> <p>次に15番ですが、吉田秋祭り調査事業でございますが、これは現在、市の指定文化財であります。是非、国の指定重要無形文化財に指定したいと考えておまして、その調査事業のほうを3か年で今年度完了ということであり。来年の2月に県のほうの指定内示を受ける予定でございます。それから引き続きまして、30年度から2ヶ年で文化庁指導の下で、記録映像の制作に入りまして、最短で33年度指定のほうを目指しております。</p> <p>次に16番でございますが、宇和島城保存整備事業でございます。これは引き続き保存整備のほうを図るものでございます。代右衛門丸石垣修理、長門丸門上石垣修理、あと、管理道測量設計委託業務といたしまして、昨年度</p>

	<p>購入いたしました J T 跡のほうから管理道を抜きたいと考えております。</p> <p>最後の 17 番目の総合戦略の郷土愛育成事業でございますが、これは「宇和島学」と銘打ちまして、小学校の高学年を対象といたしまして、宇和島の歴史等について学習する講座を開講しているものでございます。今年度につきましては宇和島城の夏の陣、冬の陣ということで水鉄砲合戦とか、居合道の経験、火縄銃、お忍び、野営でございますが、現在天守のほうで泊まれるというのは宇和島城だけでございますので、これは来年も続けたいと思います。夏の陣は例年どおり開催いたしまして、冬の陣は今年人間国宝のほうで指導のほうをしていただきました「宇和島さんさ」、こちらのほうを中心にしていきたいと思っております。文化・スポーツ課からは以上です。</p>
山本人権啓発課長	<p>人権啓発課の山本です。人権啓発課からはナンバー18、人権啓発CM制作事業について、説明させていただきます。現状といたしまして、人権教育啓発のための講演会や学習会などを長年にわたり継続して実施しておりますが、会場に足を運ぶ能動的な参加者の固定化という問題点があげられます。新規事業のケーブルテレビのCMを利用した啓発は能動的な参加が見込めない受動的な住民の方に対して、人権啓発課からアプローチできる有効な方法の一つであり、また作り手と受け手の双方により効果的な啓発方法であると考えております。具体的に言えば、作り手、これは児童生徒ですが、学習としてCMの主体的な企画立案は新しい学びであり作る楽しみがあります。そして学び考える契機になると考えております。次は受け手でございますが、これは地域住民ですが、身近なケーブルテレビでの放送は日常の中で多くの住民に啓発が届き、学び考えるきっかけになると考えております。事業概要といたしましては、市内小中学校の児童生徒が人権をテーマに人権啓発CMを企画立案するものです。授業中ではなく時間外活動として実施する予定です。企画立案の前提として人権についての学習会を実施することも予定しております。そして企画立案したものを宇和島ケーブルテレビと連携して、主に撮影、編集という技術面で協力をあおぐものです。CMを作成し地域で放送する、放送回数は内容のところに出ておりますが、合計 816 回の予定であります。放送前には、CM放送の周知と再来年度の制作校の募集についての内容を掲載したチラシを配布する予定であります。また宇和島ケーブルテレビに加入されていない方への啓発行動として、制作支援を活用した学習会などを実施予定であります。以上簡単ですが、人権啓発課CM制作事業について説明させていただきました。</p>
横山教育総務課長兼学校給食センター所長	<p>それでは、最後に 19、20、給食センター事業について、説明いたします。19 番、学校給食費負担軽減事業ということでありますが、ご存じのとおり、平成 28 年度から、総合戦略事業の一環として、学校給食費の一部を 100 円補助という形で実施をしているものでございます。これにつきましては、従前の考え方は、学校給食法にのっとり学校設置者の保護者負担分の軽減をするというところで、市立学校に補助をしていた経緯がございます。これにつきまして、岡原市長とも協議を重ねていく中で、文部科学省が 9 月、10 月にかけて、学校給食費の無償化についての全国調査をして、その結果が県へ問い合わせたら、12 月末ぐらいには中間報告がでるというように聞い</p>

	<p>ているのですが、それを踏まえて、岡原市長と今後のことについては協議していこうという話になっているところではございますが、来年度当初としては、まずもって県立南中等学校の生徒分につきましても、市内に住所を有している子が多かったのですが、この是正をするために、この100円補助分を南中等の394名いるのですが、補助をしようとするものでございます。事務方としては、南中等の事務長及び校長先生には、その旨ある程度打診を既にしております。中等教育学校サイドとしては、給食費が煩雑になるけれども協力したい旨の回答を得ているものでございます。それにつきましては、国の動向を再度精査しながら市長と最終の詰めをしたいと思っております。</p> <p>20番目、吉田給食調理場の空調設備事業ということでございますが、これは、この後たぶん小学校再編のところで、吉田地区のからみも若干出てくると思うのですが、津島以外のセンター方式でやっている共同調理場で空調設備がついていないのが吉田の共同調理場だけでございまして、ここにつきましては、夏、かなり過酷な状況で調理業務をしているところで、衛生管理上も適切でないという判断から、空調設備を設置しようとするものでございます。以上20事業、来年度の教育委員会の事業の説明を終わります。</p>
岡原市長	<p>今ほど事務局から平成30年度宇和島市教育委員会における主要な施策についての説明がありましたが、この件に関しまして、ご質問・ご意見等がありましたらお願いいたします。</p>
廣瀬委員	<p>1番の中学校へのタブレットパソコンは全生徒ではないのですか。</p>
横山教育総務課長兼学校給食センター所長	<p>説明が足りませんでした。タブレットにつきましては、デスクトップパソコンはパソコン教室に1クラス分ですから各校40台整備済みでございます。それにプラスして各校40台のタブレットを、合わせて2クラス分あるように、240台のタブレットを各学校に1クラス分ずつ追加しようとするものでございます。これについては文科の平成29年度までの整備目標として3.6人に1台という目標があるのですが、それを満たしていないので、これを入れることによって概ね満たすものだということに理解しております。</p>
岡原市長	<p>各中学校に40台ずつ入るのですか。</p>
横山教育総務課長兼学校給食センター所長	<p>合計240台を整備しようとするものです。</p>
岡原市長	<p>タブレット40台が各中学校へ配備されるのですか。</p>
横山教育総務課長兼学校給食センター所長	<p>中学校だけに40台ずつ、6校計240台を整備するものです。</p>
岡原市長	<p>よろしいでしょうか。</p>
廣瀬委員	<p>はい、ありがとうございます。</p>

岡原市長	他に何かないでしょうか。 では私から。予算査定の中で、わかたけはあの建物でいいのかという話が昨日ずっとありまして、いろいろ複合的な部分で考えることがあったのですが、それについて何か学校教育課のほうで、こうすべきだという議論はないのでしょうか。
木下学校教育課課長補佐	先ほど簡単に説明させていただきましたが、私も詳しくは知らないのですが、けれども30年度くらいには、今の建物では1市3町に拡充して対象児童を広げるといった観点からもなかなか難しいことだと。今年度は学校教育課とわかたけ、そして関係者のほうでどういう形なのかという検討会を開きたいと考えております。31年度には当初予算のほうで設計委託して、実際は新築で33年度からというのを目指したいという形ではいるのですが、けれども。
岡原市長	常盤さん、福祉課との関連が中途半端になっているのですよね。
常盤教育部長	はい、先生方のほうとですね、ぜひ一緒にということを経済課から聞いていたのですが、福祉課へ確かめましてなかなかそっちのほうに追いついていかないというようなことが協議の中でありました。では教育委員会のほうはわかたけのほうの新築に向けて取り組んでいこうかということなのですが、今わかたけのほうに配置されているのですが、一緒にやることでそういうノウハウが支援センターのほうでも十分活かしていけるのではないかとあります。できたらやはり一緒に考えていったほうがいいのではないかと。思いはまだ消えてはないのですが、けれども。
岡原市長	では一回また協議を。
常盤教育部長	そうですね。協議させてもらったらと思います。
岡原市長	他には何かないでしょうか。
廣瀬委員	今の件でいいですか。わかたけは不登校とか、行きにくい子が行っているところですよね。支援センターというのは駅前の支援センターですか。
常盤教育部長	発達障害のほうです。発達支援センターというところです。発達障害をもった子への手立てをやる所です。それは今東予のほうでもできているのですが、南予のほうにはないということで、今非常に発達障害をもった子どもたちが多くなっていることへの対応が追いつかなくなっている状況です。ぜひこの圏域にも造っていきたいという思いがあるのですが、それをわかたけの改築と一緒にしたほうがその対処ができるような人材配置になってくるのではないかと。思いがあったものでぜひ進めていきたいと思っています。
廣瀬委員	ではまた別のものですね。
常盤教育部長	別ですね。駅前とはまた別のものです。
廣瀬委員	はい、分かりました。少しあそこだと行きにくいなと思いましたので。
高山委員	主要事業とは違うのですが、特別支援のほうで、ある学校の校長先生から情報がありました。来年度入学する16名のうち3名が多動性、1人

	<p>が多動性と知的、16名のうち4名が特別支援の補助が必要で、他町からも1人いるのですけれども、その子はグレーゾーンです。そのことで支援員の予算の増加をしてほしい。学校教育課長は人はいるというけれども、ある学校は人と予算が4月にはいってそういう現状になって、それから後手になると困るので、4月から使える予算を増やしてもらえないだろうか。別のある小学校についても来年入の子が重症なので教室を別に1つ作っていかないといけないので、それを市長に分かっておいていただけたらと思います。</p>
岡原市長	<p>他地区ではそういう状況を迎えるとか、なにか精査はされているのでしょうか。</p>
常盤教育部長	<p>特別支援学級ですか。</p>
高山委員	<p>特別支援員の予算を増やすということです。野田課長は今日いないのですが、今日協議会があるので、1つだけ市長になにかあるかといわれたら特別支援の予算を増やしてもらおうようにしてほしい。市全体での予算も増えると思いますが。</p>
岡原市長	<p>うちの妻もそういう仕事をしているのでよく分かるのですけれども、これまで教育委員会の市長室での協議でも支援員さんが十分かどうかと、他の市町と比べたときの条件、条件というのは実際宇和島市の支援員さんが鬼北に行っている方がいらっしゃるのですよね、私の友達の奥さんですが。それは単価というよりもフレキシブルに時間を使えるとか、宇和島市には制限があって非常にやりにくいということを現場の声として聞きました。それで一回常盤さんにお話しして、これについて対応しなければいけないですねということは考えています。ここには反映されていないのですが、私も少し質問よろしいでしょうか。補充学習支援員とは別の支援員制度についてお聞きしようと思っていたので。これについてはどういった状況なのでしょう。</p>
木下学校教育課課長補佐	<p>もうすでに来年度の特別支援教育支援員、学校生活支援員については各学校に希望をとっています。やはり本年度よりは予算的には上げていただかないとなかなか学校の希望をそのまま叶えることは難しいかなと。補充学習支援員の兼ね合いですが、先ほど私の説明の中で、補充学習支援員が他の支援員と兼ねているという話をしたと思うのですが、実はそのやはり時間で区切られているので、学級に例えば特別支援教育支援員がついて、次つかないでいいとなった時に、その間をどうするかというのが少しあったりしてですね、これは補充学習支援員が絡んでいる支援については、そこで放課後に使うプリントを作ったり、あるいは前の日にしていたものを採点したりといった時間に充てたりして、補充学習支援員をそこで。少し個人が時間によって違うことをしているというのが、少し分かりにくいところもあるのですが、そのような形で対応している学校もあります。</p>
岡原市長	<p>この仕組みづくりはどこになるのですか。</p>
常盤教育部長	<p>学校教育課ということになると思うのですが、なにか働きやすいような形を考えていかなければいけませんね。</p>
岡原市長	<p>もちろん募集もしなければなりませんね。一回またここで話し合えるのですか。支援員についてご意見はありませんか。弓削さんどうぞ。</p>

弓削委員	私の友達も支援員をしているのですが、鬼北は時給が良いということで、良い支援員さんが鬼北のほうに行っているとおっしゃっています。
岡原市長	廣瀬さんはどうですか。
廣瀬委員	私も時給がかなり違うと聞きました。それで向こうに行ったという話を聞きました。
木下学校教育課課長補佐	時給は 870 円です。昔は 800 円とかいう時代もありましたけれども、最低賃金等を鑑みて、今 870 円です。補充学習支援員につきましては 1,000 円です。それともう 1 つ、特別支援教育支援員でなく生活支援員、特別支援学級に入る支援員を生活支援員というのですが、そこで肢体不自由に関してはなかなか支援とかも大変なところもあって時給 1,000 円です。ただ補充学習が 1,000 円となっていると、昨年度の話は私も耳にはするのですが、いろいろあって 1,000 円になり、他の特別支援員の方の時給は少しずつ上がってはきているのだけれども、もし叶うことであるならば、こっちが 870 円、1 人は 1 時間目、2 時間目に特別支援員の仕事をして 870 円、補充学習の丸付けをした時間が 1,000 円、また 5、6 時間目で 870 円というのは、少しおかしい感じになるなと思います。ただ支援を始めた時期が特別支援と補充学習は違うので、ずれがどうしても出てきているというのが現状だと思います。
岡原市長	他にご意見はありませんか。
木下委員	賃金の違いがあるのは初めて聞いたのですが、やはり地元に住んで、そういうことにある程度専門的な知識を持たれた優秀な人材が、他の町へ行ってしまうのは宇和島市にとってマイナスです。生活水準の面から考えたら時給が良いほうがいいですから、その辺の待遇のことを考えていただいて、学校のため、子どもたちのためにも優秀な人材を宇和島市に確保していただきたいなと思います。
織田教育長	関連していいですか。時給のことはさておき、1 つの件の確認を共通理解していただいたらと思うのですが、不登校の子どもたちが通うわかたけについては、現状は市内の子どもでなければ通室できないのです。南中に行く子どもが行きにくくなったということで、相談にわかたけに来ますけれども通室はできないということなどがあって、今回定住圏、宇和島市が中心市ということで 3 町受けることになったのは、大変喜ばしいことだと思いますし、あわせてさっき福祉のほうからということも出ておりましたけれども、今後今話題にあがっている特別支援についても、保護者の支援も含めてやはりできるのであれば、建物の 1 階 2 階を広くして、鶴島小学校が今ある場所に発達支援の支援センター的なものができればいいなという構想があります。しかし福祉のほうはなかなかというのがありますが、その辺をまたひとつ考えていただいて、将来的に確実に増えるであろうというのは確かだと思うので、その辺も含めて特別支援のことを考えていただいたらと思います。お願いします。
岡原市長	他の市町がどういう感じで実施しているのかは当市としても比較が必要だと思いますので、また資料とこれから必要な人数等はだいたいいつくらい

	に出てきそうなのでしょうか。
木下学校教育課課長補佐	今希望をとっており学校から出てきております。
岡原市長	それを合わせて、また常盤さん協議をしましょう。
常盤教育部長	分かりました。
高山委員	ひとつだけいいですか。時給の話がたくさん出たのですが、時給よりは、気持ちよく働けるように補助員や支援員を募集したほうが優秀な人材も集まると思うのです。お金も大事だけど、働き方を雁字搦めにしてというのは。
岡原市長	もちろん時給よりは仕組みだと思しますので合わせて考えます。
弓削委員	ひとついいですか。支援員の募集はいつも公にはしていないですよ。
岡原市長	先生から先生へと道を辿りながらというイメージはありますよね。
木下学校教育課課長補佐	学校には支援の必要な児童生徒がいると思うのですが、それは学校が把握しています。ということは人数によって何人かの支援員が必要であるということが分かります。その人をどうするかということについては、なかなか教育委員会と言われましてもそこまでのネットワークがないので、各学校が地域の中にあるわけですから、外部からというわけにはいきませんので、近隣で教員OBであるとか、いろいろな人の情報を得て探してきて、この人にしてもらおうことになりましたと市教委に文書を申請してもらおう流れになります。
岡原市長	よろしいでしょうか。
弓削委員	はい、広報とかでも募集を見たことがなかったので。
常盤教育部長	学校が依頼してうまく人を見つけることができるものなのかな。
木下学校教育課課長補佐	これがですね、中学校区に小学校があつたりしますよね。そうした時に、例えば小学校で男性の支援員が欲しい、でも中学校でも同じような状況があつた時、ずっと中学校で続けていたのを辞めて小学校に行くわけにはいかないので、そういった場合とかは重なりがあつたりするので、決して支援をしてくれる方が多いということではなくて、どんな人にしてもらおうか話し合いながら校長や学校の職員さん達に探してもらいながら声をかけていくという形にはなっています。
岡原市長	常盤部長、後日協議をした内容は教育委員さんにフィードバックされるのですか。
常盤教育部長	教育委員会の定例会等で報告させていただきます。
岡原市長	では先ほど木下委員さんが言いかけた件をお願いします。
木下委員	この後も吉田の小学校とか吉田町のことが多いのですが、今でている主要事業13番の結婚推進事業なのなのですが、私はMIセンター結婚

	<p>推進員として、男女の出会いの交流会などイベント進行等を務めて現場のこともよく分かっているのですけれども、委員さんも多いのですけれども、なかなか登録者数が思うように増えていかないというところがあります。またその辺のところは推進委員会のほうで登録者を増やしていくということもありますが、できるだけ出会いの場をつくって、それがすぐ少子化対策となるわけではないですが、独身の男性と女性が宇和島に住むことに喜びを見いだせるようにしていきたいなと思っております。成婚が年間 20 組なのですが、先日も吉田町のみかん農家の方が公民館の婚活事業で知り合った方との結婚式がありました。本当におめでたいことです。少しずつ成果がでておりますので、こちらの事業もよろしくお願ひしたらと思っております。目に見えてすぐ成婚という結果まではいきませんが、お付き合いを始めた方達もいますので、よろしくお願ひしたらと思っております。</p> <p>15 番の吉田の秋祭りなのですが、これはもう意見として申したいのですけれども。国の指定の無形文化財に申請していますが、課題としてこの前の 11 月 3 日もおねりの担ぎ手の人材が本当に不足しております。友人は松山に住んでいるのですけれども、地元のほうで担ぎ手がないということで、帰ってきて引っ張るということがありました。喜ばしいことなのですが、人材不足という課題はあります。</p> <p>最後は、学校給食センターの空調設備なのですが、今年も夏場暑くて働いている方が過酷さで辞めてしまうような事情も聞いておりますので、ぜひ働きやすい環境を、特に吉田調理場の給食は美味しいと評価をいただいておりますので、衛生面はもちろん大事なのですが、働く環境も考えていただき、空調設備をよろしくお願ひしたらと思ひます。以上です。</p>
岡原市長	<p>結婚推進事業については、これはどのくらいの頻度でイベントをしようとしているのですか。</p>
寺尾生涯学習課長	<p>はい、まず数字なのですが、成婚については 28 年度に 16 組です。お見合いについては 92 回行いました。どうしても相手がいることですので 92 回の後もお付き合いを継続されている方がいますから急に結果は出ませんが、昨年度はそういう形で行いました。市長が言われたイベントなのですが、MI センター主催のイベントについては年間 3 回ふれあい交流会を行っています。28、29 年度もそうなのですが商工会議所のほうに委託をしています。その商工会議所のほうも年間 3 回のイベントを行っています。それと公民館で、全館ではないのですが、だいたい 3 回程していますので、合わせて年間 12、3 回です。ただ考え方として、昔のお見合いというのではなく、MI に登録してほしいのは、そこに登録しても恥ずかしいことではない、当たり前のことであると考えてもらえるくらいもっと気楽にふれあい交流会に参加していただきたいです。毎回定員があるのだけれどもオーバーするくらいというのが活動の目的としております。じわじわではあるのですが、今まではなかなか女性の参加者がいないという問題があったのですが、少しずつ周知していったら、その部分の解消はできてきていると思っております。</p>
岡原市長	<p>例えばそういうビラであるとか周知の方法はどういったことをしているのですか。</p>

寺尾生涯学習課長	今は広報への掲載をまずしています。一番大きいのは広報です。それとホームページにも載せています。木下委員さんが言われたように、推進員が1市3町で合計8名、計32名の方が定期的にある3回の会議で、周りにそういう方はいませんかという形の紹介をしていただいて、推進員の方が連れてきていただいて登録していただいたりとか、ふれあい交流会にも推進員の木下さんとかにはいつもよく出ていただいて、男女の間をとりもってくれるようなことをしていただいています。
岡原市長	木下さん、そこで今のMIが足りているところ、こうしたらいいのにというところがもしあるなら教えてください。
木下委員	登録者数はそれぞれの委員さんから出てきてはいるのですが、まだまだ声をかけても本人が乗り気にならないというのがあるのと、逆に親御さんだけが一生懸命になって、本人にその意志がないのに書類だけ上がってくるような例もあります。そういった考え方の違いというものもあって難しいところはあるのですが、先ほど課長さんが言われたように、一度登録して気軽な感じに、守秘義務も当然ありますし、交流会などにしても最初は行政が行うお見合いパーティーだからといって遠慮する方もいるのですが、来ていただければもう参加者主体で出会いのきっかけづくりを2時間程度ですが、楽しんでいただけます。また市役所のほうにも若い独身の女性の方がいると思うのですが、ぜひ知り合いの方を気軽な気持ちで、出会いの場のきっかけづくりということで呼びかけていただけたらと思います。推進員の方々がそれぞれの地元におりますので、近くの年頃の男性女性をぜひ登録していただいて積極的に結婚ということに意識をもって、自分からこういう交流会にしるお見合いにしる参加していただけたらなと思います。担当の職員の方2名おりますが、本当に一生懸命していただいています。女性の2名の方々や色々なイベントなりお見合いの事業があることも報告しておきます。
岡原市長	婚活は、海の人達はどんどんしてもらってもいいというのはあるのですが、周知の問題なのか、今までMIに入った人には、イベントの告知とか郵便が届いたりメールがいくとかあるのですか。
木下委員	皆さん携帯を持っているのでメールなり登録をしてもらっている方にはMIのほうから、今度は12月17日に交流会がありますと連絡しております。
岡原市長	たぶんミスマッチというか、やられているけど伝わっていないということも多分あって、伝え方として一度そういう周知をする部分で検討するのも良いかと思います。それだけ前向きにされているのも知られてないと思います。いろいろMIセンターとはどんな所と聞かれて言うことがあるのですが、知らないと言われることが多々あります。
常盤教育部長	昔は農業後継者とかの団体がそういう取り組みをされていたと思いますが、今はどうですか。
木下委員	吉田のほうの後継者の団体のほうから、何の予算でしたか。
寺尾生涯学習課長	MIに組んでいまして、地方創生予算の分で、最高が1つのイベントに20万円の限度ですが使えるので、立間の農業後継者団体がこれを使いイベント

	をしたいという相談を受けております。
岡原市長	MI のほうに何かしたいと言えば仕組みがあるということですね。
木下委員	団体である程度の立場の農業後継者団体であれば。以前、広域事務組合でも似たようなイベントをしていたのですが、その時のイベント周知に、新聞広告にいろいろな形で、その一面に、1月前か2月前くらいにこういうイベントをしますという広告で、宇和島市、宇和島管内に配ったのですが、結構費用がかかったような記憶があります。
岡原市長	引き続きよろしくお願ひします。 他に何か主要な事業の中で質問はありませんか
高山委員	12番の宇和島土曜塾について6ヶ月経ちましたが今の時点での成果や現状を教えてください。
寺尾生涯学習課長	この土曜塾については、先週の金曜日に自民党の議員さん14名の方からも勉強会という形で7ヶ月経過後の成果等を報告をしました。試験的に28年の2月、3月に中学生の1年から3年生を対象に2ヶ月間実施しました。その時の募集の率に応じて29年度はどれくらいくるのかという形で定員を設けました。80名で始めた現実があります。それに対して今の段階で少し多い86名くらいで動いていますが、その中で議員さんからも全員出席するのかという質問が出ました。その中で、平均したら7割程度しか来ていないのが現実です。休む理由といたしましては、部活とか地域の行事、家族でとかということ各理由は把握しております。成績はどこまで上がったのかということ点数での表示を言われましたが、1回、2回目のテストが終わっているのですが、中学生については4点、これが多いのかどうかは分かりませんが、1回目よりは4点平均で上がっています。英語と数学が上がっています。ただ、その4点が高いのかどうかはなんとも言えませんが、数字としての成果はそういう形です。ただあくまで土曜塾の目的は勉強をする意思のない子をどうにか勉強をする席に付く習慣を身に付けさせる事もある程度の目標にしておりますので、数字だけでなく真面目に来る子もいますし、勉強の仕方の分からない子に対して4人に1人の支援員がおりますから、気軽に質問できていく環境で進めていきたいと今後も考えています。ただ方法についてトライさんが入ってもらっているのですが、トライさんが1社ですることがいいのかどうか、それについては充分地元の先生OBさんとかを活用してできないのかといういろいろな意見もありますので、課としてもいろいろと協議をしている段階でございます。
常盤教育部長	今後検討していくときに、今トライに委託していて、トライでのこの間の評価4点上がったということが出てきておりますが、具体的に土曜塾に来て学校でどのような様子になって、この間その子に変化があったのかどうかということも検討する中で、学校にも土曜塾に参加しているのだけれどもこの間どうですかということの様子を確かめていく必要はあるだろうなと思っていますので、その辺りの学校との連携というのはこれからも必要になってくると思います。

総合教育会議	(2) 宇和島市立学校適正規模・適正配置について事務局より説明し、市長と教育委員会にて意見交換する。
5. その他	
岡原市長	最後に、その他、意見交換等々ということで、せっかくの機会ですので、何かございましたら、よろしくお願ひいたします。
織田教育長	宇和島市内の小中学生の状況を考えてみますと、5、6年前くらいは特に中学校においては生徒指導面で前教育長が大変苦勞されたり、その辺りの様子は市長さんもお存じだとは思いますが、各学校が大変頑張っていたいで、大変落ち着いてきている現状があります。そういう現状の中で変わってきていないのが、残念ながら宇和島市内の6年生、中3生が取組む全国学力学習状況調査の結果です。平成16年度は小学生が真ん中より上位に、7位くらいの動きを見せたのですが、今年度を見てみますとまた少し下がってきているという中で、何をお聞きしたいかという、1つは市内の児童生徒の今の状況を学力についてどう捉えられていて、今後どうされたいのか、抽象的な問いかけになって申し訳ありませんがお聞かせ願えたらと思います。
岡原市長	学力については、正直私も専門ではありませんので、むしろ先生たちがやられたい授業とか外見のところをチェックするところからかなと思っています。私が思うに、今回9月議会でしっかりとした仕組みを入れさせていただき決議をしたのも、先生がもっと教えるという環境に従事できるようにするのであればというところで、校務支援システムなどで先生達の環境を良くしていくことも、今、先生達が環境が悪いから授業が悪いという意味ではないですよ、より生徒と向き合う時間を含めてというサポートは絶対していかねばいけないうと。ただ、私のほうがそこは専門家でないのと勉強不足であるので、学力が次なる思考を生み出して行くところも十分得ていますので、そこは私も勉強していきたいなと思っています。
織田教育長	もう1点、南中の定員数といいますか、40人の4クラス160名の定員ですよね、次年度も変わっていませんが、その内のだいたい130名ぐらいが市内の子どもたちであるという状況の中で、前市長の時にも、前三好副市長の時に県の教育委員会のほうに行って定員の見直しをお願いしたのですけれども、1倍を超える倍率というところでなかなか変えようとされないわけですけれども、その辺を市長はどのようにお考えになっておられますか。
岡原市長	設置を許したのは誰かという話からすると、こうなったらダメですというのどうかなと思いますけれども、実際にバランスを崩しているなというのはすごくあります。高校自体も市内向けで普通科に行こうと思えば宇和島東しかないですからアンバランスになったなという感がございます。それはこれまでの経緯ももう一回しっかりみてから、県としてはここに設置していいといったから設置したわけであり、それらの考え方も、こちらがダメだからそうしてほしい、成績がこうだからっていうのは少し理屈としてどうなのかなというのがありますので、そこはこれまでの経緯をしっかり確認してから言うべきことはしっかりやっていきたいと思っています。
横山教育総務課長兼学校給	校務支援システムのプロポーザルのプレゼンテーションが終わりまして1社特定しました。この決裁を今日上げますので契約をできるだけ早くしたい

食センター所長	と思いますのでよろしくお願いします。
岡原市長	<p>他にありませんか。</p> <p>ないようでしたら私から1点、これは教育委員会だけではなく宇和島市の市長部局のほうなのですが、どうしたら機能するだろうと思ったのですが、教育委員会と市長部局と別なのですが、宇和島市はシティセールスというか広報力がなかなか難しいだろうなと思ってるところで、これから少しでも勢いある街であるためには、自分としては何を考えどういう行動をしていくかということを広報というものにすごく力を入れていきたいなと思っているところです。そのためには、これはまだまだそういった力は無いかもしれませんが、若干組織を触る必要もあるのかなと。同じく私も教育委員会にも少し思うことがありますて、これはただ意見として聞いてください。そうしたいとか変な協議とか必要ありません。教育委員会は教育長がいらっしやって、部長がいらっしやって、各課がある。これはものすごく教育委員会は多忙なイメージ、特に教育総務課はずっと処理をしている、市議がいろいろなことを言いに行くのですが、学校をこうしてほしいというのが一番多いところで本当にそれに忙殺されている感があるのですが、いわゆる教育をどのようにしていくかというのはこういう会議であるとかそういったことですけど、教育長はずっとそれをどうなっているどうなっているというのはなかなか難しい話なので、全体像は教育長の頭の中にあるとしても、いわゆる教育政策的なものをずっとどこかがウォッチしている係がないような気がして、全部生涯学習課とか教育の中での先生達はどう考えているのか、全部教育長が考えながらやっていくみたいなの、組織として教育総務課の中で本当は教育政策といいますか一貫して市はこのようなやり方をするという、それをウォッチしていくような係がなく、あったらもっと多忙な中でもあったらいいのかなと思うのが1点と、今回は話にもありましたけど、学校給食ではいろいろな100円引きをすとかしないとか、子どもたちの安心安全をやっていく課であるとか組織として補助的すぎて確か横山さんが課長でしたよね、そういうのを見ていてちゃんと給食というところを責任となにかを置いたほうがいいのではないかとするのは外見的に見てすごく思いました。教育というのは、子どもたちは宝でこれからも絶対力を入れていくというのは私は決めていましたので、皆さんも同じ方針だと思いますので、それを働きやすい形、働きやすい人、先ほどの支援員さんもそうですけれども少しでも良くしていこうというところに形を変えるということもそういうようになっていくきっかけになりますので、そういった思いでございます。</p>
岡原市長	他に何かございませんか。
総合教育会議	特になし
<b>6. 閉会</b>	
岡原市長	それでは、以上をもちまして、平成29年度第2回宇和島市総合教育会議を閉会いたします。ありがとうございました。